

校長室より

令和 3年11月25日
校長 植 野 博 之



向寒の候、今年は例年より寒いように感じます。感染対策を心がけている日本では、コロナもかなりの減少傾向であり、和歌山県においても感染者が出ない日も多くなってきました。これから冬場を迎え、感染も広がる可能性も高いので、乾燥にも気をつけ、換気もしながら12月も乗り切りたいと思います。児童生徒達は11月は文化祭や中学部修学旅行等大きな行事も無事終了し、楽しい思い出を胸に元気に学校生活を頑張っています。

ロボットプログラミング選手権2021（病弱教育部門） 近畿・東海・北陸地区大会で準優勝！ 全日本小中学生ロボット選手権地区予選で優勝！ 両大会 全国大会出場 おめでとう！

みはま支援学校では、総合的な探求の時間における講座の1つとして、ロボットの製作とプログラミングの学習を行っています。

11月2日（火）にロボットプログラミング選手権2021が行われ、近畿・東海・北陸地区の病弱支援学校から16チームが参加し、みはま支援学校の黒鴉（くろがらす）チームは見事準優勝し、令和4年2月に行われる全国大会に出場します。ロボットプログラミング選手権とは、プログラミングされたロボット同士が対決して、土俵から押し出した方が勝利という競技です。白熱した戦いが続き、接戦を制していききました。

11月13日（土）には、紀央館高校にて全日本小中学生ロボット選手権県ブロック予選が行われ、チームみはまの制作したロボットが、見事優勝し、12月4日に、和歌山工業高校において実施される全国大会に出場します。

今回のテーマは「山岳救助隊」で、崖下の要救助者に見立てたペットボトルをできるだけ早く救助するという設定でした。

チームみはまのロボットは、精巧なロボットと操縦者の見事な操作力で階段（崖）を乗り越え、課題を達成し、他を圧倒するスピードで優勝しました。全国大会での、両チームの活躍が期待されます。



ロボットプログラミング選手権2021



小中学生ロボット選手権

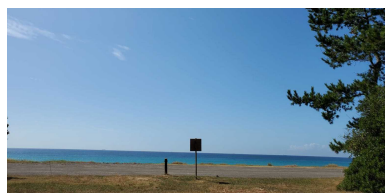


一学部（和歌山病院入院生） 森林浴といもほり

一学部では、11月9日（火）や16日（火）に美浜町の松林や学校周辺に森林浴に行きました。11月9日は少し風が強く、寒さも厳しかったので、学校でのさつまいも堀りを行いました。

大きなさつまいもはとれませんでしたでしたが、ツルをしっかり引っ張っていくつかさつまいもも堀り出して嬉しそうでした。

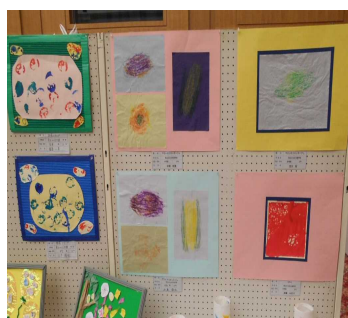
11月16日は、晴天にも恵まれ、松林に森林浴に行けました。大海原を満喫できたのではないのでしょうか。高等部3年生にとっては、最後の森林浴です。広大な煙樹ヶ浜は心に残る素敵な景色ですね。



第19回わかやまかがやき展

11月13日（土）～21日（日） 県内の特別支援学校や特別支援学級の児童生徒の作品が和歌山市のビック愛に展示されました。今年は和歌山での全国大会と並行しており、多くの観覧者で賑わっていました。

ビック愛会場にて
一学部 二学部 生徒作品



一学部生徒作品
（ランプシェード）



コロナ対策で、二酸化炭素濃度測定器

みはま支援学校では、国や県のコロナ対策予算の中から、二酸化炭素濃度測定器を各教室教室内に配置しました。これは、教室の換気ができているか、その目安として二酸化炭素濃度を測定できる機械で、数値が1000を超えると教室をしっかりと換気しましょうという目安になります。日頃から換気には気をつけていますが、目に見える化されて、室内気温や湿度もわかり、より生徒や職員も感染対策を意識しやすいツールとなりました。

